

2017年1月15日(日)

説教:「求めよ、探せ、門をたたけ」

聖書:マタイによる福音書7章7～12節

ここは5章から7章までの「山上の説教」と呼ばれるところで、まとめに入っている。ゆえに、これまで何が語られ、この後何が語られているのかを見ながら、イエスは、何を「求めよ」と教え、何を「探せ」と教え、どこに通ずる「門をたたけ」と教えられているのか、そのことを見て行く必要がある。

「自分の命のことで…思い悩むな」(6:25～)とある。では、何を求めるのか？ このところでは「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」(6:33)とある。次に「人を裁くな」(7:1)とある。私たちは人の欠点や罪を探し出し裁くものだったりする。この「裁くな」の後に、「探しなさい」と言うことから見て行くと、それは、人の欠点を探すのではなく、人一人の長所を「探しなさい」ということになろう。人一人の尊厳を大切に、神が与えた命の輝きを見出すこと、探すこと。そして「門をたたきなさい」とはどのような門をたたくのか？この後、「狭い門から入りなさい」(7:13)と出てくる。狭い門とあるゆえ、何でもいいということではなさそうだ。

聖書の原文を見ると、ここは命令形で「～し続けなさい」とある。ここは、私たちが、生涯をかけて神の国と神の義を求め続け、人の尊厳を探し続け、狭き門をたたき続けることが大事になる。

もう少し具体的に見たい。私たちの沖縄は、イエスの教えに当てはめるとどうなるか？ 沖縄は、神の国、神の義に満たされていると言えるか？ 神の国とは愛と赦しに満ち、命が豊かに生まれ、生かされている世界のこと。沖縄は、人間の尊厳が保たれ、守られていると言えるか？ 人一人の命は、尊厳は守られているか？ 沖縄は、命に通ずる道を見出す門は、開けてもらえているか。私たちの沖縄を見る限り、固い門に閉ざされた状況であると言わざるを得ない。

ただ、イエスの言葉は希望に満ちている。「求めなさい。そうすれば与えられる(と言っている)。探しなさい。そうすれば見つかる(と言っている)。門をたたきなさい。そうすれば開かれる(と言っている)。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる」とイエスは私たちに言うのである。

それは、私たちがあきらめずに、神の国と神の義を求め続け、人の尊厳を探し続け、狭き門をたたき続けることにある。沖縄の状況を覚えながら、私たちに出来るところから、あきらめずに、求め、探し、門をたたき続けよう。(神谷)